

第2期堺文化芸術推進計画の目標の達成度、
効果等に対する検証・評価について

答 申 書

（令和3～令和7年度〈5カ年〉に実施する評価の4年目）

令和7年3月

堺市文化芸術審議会

はじめに

堺市における文化芸術振興の基本理念などを定めた「自由都市堺文化芸術まちづくり条例」（以下「条例」という。）に基づき策定した「第２期堺文化芸術推進計画」（以下「第２期計画」という。）を踏まえ、令和６年６月６日、同計画の目標の達成度、効果等に対する検証・評価について、諮問を受けた。

第２期計画では、前期計画の結果やその後の社会情勢の変化から生じた課題に対応するため、新たに、「重点的方向性１：文化芸術とともに生きる」、「重点的方向性２：文化芸術で子どもたちを育てる」、「重点的方向性３：多くの人に魅力を伝える」の３つの重点的方向性を設定している。同計画の評価に当たっては、各重点的方向性につき２事業を選定し、当該事業の実施主体へのヒアリングや現場の視察等を通して、第２期計画の骨子である重点的方向性について有効な施策が実施できているかの検証・評価を行うものとする。

評価の４年目である令和６年度において、堺市文化芸術審議会では、諮問に基づき、以下のとおり、各重点的方向性の進捗確認に最も効果的と判断される視察事業を選定した。

○重点的方向性１：文化芸術とともに生きる

（トークイベント、さかいとあーと井戸端かいぎ（交流会））

○重点的方向性２：文化芸術で子どもたちを育てる

（ワークショップスキル夏季集中講座、アートスタートプログラム）

○重点的方向性３：多くの人に魅力を伝える

（文化芸術振興事業（フェニーチェ堺）、さかい利品の杜管理運営事業）

重点的方向性１に係る事業のうち、「トークイベント」については、専門知識を有する人材が所属する堺アーツカウンシル及び公益財団法人堺市文化振興財団が、双方の知見を活かし連携して事業を実施した。また、「さかいとあーと井戸端かいぎ（交流会）」については、堺アーツカウンシルが主体となって事業を実施した。重点的方向性２に係る事業としてはいずれも堺市の文化芸術の創造発展を支える事業を実施する推進母体である公益財団法人堺市文化振興財団が、アートマネジメントに関する専門性やネットワークなどを活かし芸術家等との様々な主体と連携しながら事業を実施した。重点的方向性３に係る事業のうち、「文化芸術振興事業（フェニーチェ堺）」については公益財団法人堺市文化振興財団が音楽団体と連携しつつ事業を実施した。また、「さかい利品の杜管理運営事業」については、指定管理者（SAKAI 縁プロジェクト）が芸術家と連携しながら事業を実施した。

調査報告について討議を行い、次のとおり結論を得たので、堺市長に答申するものである。

本答申の趣旨に沿って、市は第２期計画の目標達成に向けて、引き続き着実かつ効果的な事業及び施策の推進を図るとともに、必要に応じて、事業の実施主体に対する指導等の措置を講じるよう要望する。

会長	藤野 一夫
会長代理	坂東 亜矢子
委員	雨森 信
	さいとう しのぶ
	田辺 竹雲斎
	永井 泉
	永島 茜
	藤原 麻喜子
	山口 洋典

第2期堺文化芸術推進計画

基本目標

- 自由で心豊かな市民生活の実現
- 都市魅力の創造

基本目標の実現へ

基本的施策										
市民文化					共通			都市文化		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
環境文化の芸術整備活動を行う	備と文化が文化で芸術に環境の整備	化学芸術教育活動の充実	う将子来どの文化の芸術を担	材文化の育成を支援する人	文化施設の活用	多様な分野との連携	及歴史文化資源の継承	の魅力的なまちの景観	交国際的な文化芸術の	経済活動との連携
条例第9条	条例第10条	条例第11条	条例第12条	条例第13条	条例第17条	条例第14条	条例第15条	条例第16条	条例第18条	条例第19条
重点的方向性1 文化芸術とともに生きる					○重点的施策1-1：文化芸術を通じた社会的課題の解決 ○重点的施策1-2：すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実 ○重点的施策1-3：市民の文化芸術活動の機会の提供 <具体的取組> ・すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実 ・「堺アーツカウンシル」の創設による施策の推進 ・地域文化会館の地域における文化芸術拠点としての機能強化 ・コミュニティのつながりによる地域活性化の実現					
重点的方向性2 文化芸術で子どもたちを育てる					○重点的施策2-1：未来の文化芸術を担う子どもたちへの文化芸術に触れる場の提供 ○重点的施策2-2：子どもたちの育成に寄与する芸術家の育成 <具体的取組> ・市内学校園での文化芸術鑑賞、ワークショップ等の実施 ・意欲のある子どもが更に興味を深めることができる活動の場の提供 ・子どもと芸術をつなぐ人材の育成 ・行政、芸術家と子育て機関、学校等との有機的な連携					
重点的方向性3 多くの人に魅力を伝える					○重点的施策3-1：堺の文化資源を通じた市民意識の醸成 ○重点的施策3-2：市外、国外の人々への堺の文化資源の魅力発信 <具体的取組> ・歴史文化資源を活用した市民意識醸成、情報発信 ・地域の伝統文化や文化財を活用した都市の活性化 ・未来の歴史文化資源の発掘、育成 ・フエーチエ堺による都市魅力の発信					

各重点的方向性に係る視察及び評価について

■重点的方向性 1 文化芸術とともに生きる

重点的方向性		評価指標	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和7年度)
1	文化芸術とともに生きる	文化施設※1利用者数	1,049,609 人／年	1,500,000 人／年
		地域文化会館における地域マネジメント機能の構築	—	機能構築
		社会包摂型事業の新規実施	—	事業実施

※1 フェニーチェ堺（堺市民芸術文化ホール）、堺市立文化館、堺市立榑文化会館、堺市立西文化会館、堺市立東文化会館、堺市立美原文化会館、堺市立中文化会館

評価対象	トークイベント
実施主体	堺アーツカウンシル・公益財団法人堺市文化振興財団
事業概要	「文化芸術と評価」について、文化芸術分野の研究者や専門家、実践者が登壇し、評価の可能性についてトークを交えながら検討する。
調査概要	◇文化芸術活動と評価のくねくね道 日程：令和6年10月26日（土） 場所：堺市立東文化会館
事業の重点的方向性への寄与	- 地域の文化芸術活動を充実させ、人々が身近なところで文化芸術に参加したり享受したりするためには、そうした活動が適正に評価され、継続や発展につなげていく必要がある。そのため、活動に携わる立場の人たちが、適切な評価を得るために必要なことについて情報を得たり、検討したりすることは重要である。本事業は、改めて「評価」とは何か、評価する／されることが持つ意義、について情報を得たり考えたりする機会になったと思われ、「文化芸術とともに生きる」に寄与していると言える。 - 文化芸術活動の現場で発生する問題を共有し、公開の場で異なる立場から専門的な議論を行う事は、堺市の文化行政の質を向上させることに直結しており、3つの重点的施策（「1-1 文化芸術を通じた社会的課題の解決」、「1-2 すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実」、「1-3 市民の文化芸術活動の機会の提供」）のすべての基盤となるため、重点的方向性に対して大いに寄与しているといえる。加えて、堺市がこのような取組を行っていることは、他の地方公共団体にも認知されつつあるため、市内外にインパクトを与えているものと考えられる。

評価対象	さかいとあーと井戸端かいぎ（交流会）
実施主体	堺アーツカウンシル

事業概要	堺市内でさまざまな文化芸術活動を行っている方同士をつなぐ場として、各回のテーマに沿ってさかいとあーと井戸端かいぎ（交流会）を実施する。
調査概要	日程：令和6年11月20日（水） 内容：ゆる相談会＜申請の手前で話してみよう＞ 場所：フェニーチェ堺
事業の重点的方向性への寄与	● イベントのコーディネートのコツなど様々な経験談が披露され、参加者が文化芸術活動を継続するためのヒントを得られる場になっていたように思う。これから文化芸術団体を立ち上げようとしている20代の参加者が、文化芸術活動の先輩である他の参加者の方々から、エールを送られていたのも微笑ましい。文化芸術とともに生きている方々に優しく寄り添う事業であると感じられた。 ● この事業は正に、文化芸術とともに生きるために必要な環境を整え、更に人材育成にも寄与していると感じる。「文化芸術とともに生きる」という目標を達成するには、享受する側だけではなく、提供する側がいなければ成り立たない。この重点的方向性の理念を推進・発展させていくためにも、日々活動している方々を応援サポートしていくことが必須であり、今回のように補助金事業の説明会とセットで行う意義は大きいと感じる。 ● 参加者の自由闊達なやり取りが展開される中で、堺アーツカウンシルのプログラム・オフィサーより「堺市はタレントが多い」という評価発言があり、それが大変印象に残った。政令指定都市であるから人口が多く、多種多様な人材が集まっているということであろうが、それだけが理由ではないように感じた。歴史ある風土がベースにあるという、他にはない都市魅力のブランドが影響しているように思えてならない。堺ならではの自由闊達な雰囲気が、アーティストが育っていく上で非常に大きな影響を及ぼしているのだとすれば、堺アーツカウンシルの活動および、活動する方々に寄り添う今回の事業は大きい役割を果たしていると言えよう。

■重点的方向性２ 文化芸術で子どもたちを育てる

重点的方向性		評価指標	現状値 (令和５年度)	目標値 (令和７年度)
2	文化芸術で 子どもたちを育てる※2	芸術家の学校への派遣割合 (計画期間における派遣校数/全小中学校数)	50.72%	80%
		事業体験後、児童が文化芸術に興味を持てたと答える割合	77.8%	90%
		事業体験後、学校側が子どもたちに良い影響・変化があったと答える児童の割合	84.41%	90%

※2 文化課所管の事業を主に指標に用いています。事業の推進にあたっては、教育委員会の協力を得て実施しています。

評価対象	ワークショップスキル夏季集中講座
実施主体	公益財団法人堺市文化振興財団
事業概要	参加者の能動性、主体性、協働性にフォーカスした音楽づくりを基礎とするワークショップの企画開発・準備・進行に関するスキルについて、音楽家が互いに学び合い、向上させるコミュニティを形成する。
調査概要	日程：令和６年９月４日（水） 内容：音楽ワークショップ創作トレーニング 場所：フェニーチェ堺
事業の重点的方向性への寄与	「文化芸術で子どもたちを育てる」ためには、一過性のイベントではなく、継続的かつ多様な場所で事業展開が重要となる。そのためにも、必要な人材を育成することは必要不可欠であり、「ワークショップスキル夏季集中講座」は重点的方向性に大きく寄与すると考えられる。また、本事業の受講生たちが様々な現場での経験を積み、スキルアップしていくことで、他事業でも活躍するなど、堺市の文化芸術活動が充実していくことを期待する。 - 実際に受講生がワークショップを開催すれば、参加した子どもたちは様々な楽器に触れることができ、自由にのびのびと表現できる。なにより楽しいという経験が音楽というハードルを下げる。音楽という芸術の扉を開くにはとても良い機会になると思う。 そして、こういったワークショップの指導者を増やすという事は子どもたちが学べる機会も増えるので、今後も実施して優秀な指導者をどんどん増やすべきである。また、受講も今回だけにとどまらず、実際に経験を積んだのちもスキルアップを図れる講座が必要だと思う。 - 本事業は、「重点的施策 2-2 子どもたちの育成に寄与する芸術家の育成」に直結するが、長期的には「重点的施策 2-1 未来の文化芸術を担う子どもたちへの文化芸術に触れる場の提供」にも繋がるため、重点的方向性に対して十分に寄与すると考えられる。 今後、一層デジタル化が進むと予想されるなかで、芸術家と直接関わりなが

	ら文化芸術活動をすることは、こどもたちにとって貴重な体験・機会となると考えられる。 本事業でスキルを身に付けたアーティストが、こどもたちの文化芸術に触れる場や機会を創出していくことで、「文化芸術に触れる場」が、点から群となりクラスター化していくことによる相乗効果も期待される。
--	--

評価対象	アートスタートプログラム（未就学児対象アウトリーチ）
実施主体	公益財団法人堺市文化振興財団
事業概要	幼稚園、認定こども園、保育園等で多様なアートプログラムを実施することで、次代を担うこどもたちにアートに出会ってもらい、新たな経験を通じて、豊かな心と感性を育むことができる環境を構築する。
調査概要	◇アートスタートプログラム（音楽） 日程：令和6年10月15日（火） 内容：0歳～5歳児への音楽体験 場所：まつのみこども園（中区）
事業の重点的方向性への寄与	- こどもたちと演奏家の距離が近く自然で自由な雰囲気の中で、こどもたちが音楽を聴いたり、動きで反応したり、あるいは音や音楽の違い、楽器について考えたりできるプログラムであった。そのため、0歳児から5歳児までのこどもたちに相応しく、また音楽に対する興味を惹きだす体験になったと思われることから、「文化芸術で子どもたちを育てる」に寄与していると考ええる。 - 本事業は、重点的施策である「2-1 未来の文化芸術を担う子どもたちへの文化芸術に触れる場の提供」、及び「2-2 子どもたちの育成に寄与する芸術家の育成」の両面から重点的方向性に直接寄与するものである。幼児期より堺市に関わりのあるアーティストによる文化芸術活動を身近に感じて成長することは、市民による文化芸術活動を充実させ、質的向上にもつながると考えられる。

■重点的方向性3 多くの人に魅力を伝える

重点的方向性		評価指標	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和7年度)
3	多くの人に 魅力を伝える	山口家住宅、清学院、鉄炮鍛冶屋 敷来館者数	7,428 人／年※3	30,000 人／年
		文化芸術事業の認知度が 30%を 超える事業数	2	10
		先人顕彰事業の参加者数 (さかい与謝野晶子青春の短歌大会参加 者数 及び阪田三吉名人杯将棋大会参加者数)	6,654 人／年	10,000 人／年

※3 山口家住宅、清学院は休館期間を除いた令和5年4月から6月までの来館者数
堺鉄炮鍛冶屋敷来館者数は開館後の令和6年3月からの来館者数

評価対象	文化芸術振興事業（フェニーチェ堺）【“子どものための”音楽のあるひととき】
実施主体	指定管理者（公益財団法人堺市文化振興財団）
事業概要	市民に対する質の高い文化芸術の鑑賞機会の提供及び市民文化活動の場の提供を 目的として、各文化会館において施設の管理運営及び文化芸術振興事業を行う。
調査概要	日程：令和6年8月21日（水） 内容：“子どものための”音楽のあるひととき Vol. 17～音にふれてみよう♪～ 同時開催：夏の子どもワークショップ DAY 場所：フェニーチェ堺
事業の重点的 方向性への寄与	「音楽のあるひととき」は敷居を低くして、気軽にクラシックに親しめるように考えられたプログラムであるので、「多くの人に魅力を伝える」には寄与していると言える。 加えて本事業は、「文化芸術とともに生きる」（重点的施策 1-2 すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実）や「文化芸術で子どもたちを育てる」（重点的施策 2-1 未来の文化芸術を担う子どもたちへの文化芸術に触れる場の提供）を包括的に進めていく重要な場/プログラムとなる可能性がある。 - 当日はこどもの他に両親や祖父母の参加もめだっていた。一様に皆がとても楽しんでいた。こども向きではあるものの、大人も楽しんでいたのも、多くの人に音楽という魅力を伝えることができたのではないかなと思う。本来、交響楽団が好きな方には物足りないかもしれないが、普段あまり機会のない大人には、こういったプログラムの方が、敷居が低く、楽しめるため、この形態は音楽という文化活動を広めるチャンスなのかもしれない。この事業を契機として、年齢制限のない大人も子どもも楽しめる参加型のコンサートを増やしていくことで発展性が見込める。

評価対象	さかい利晶の杜管理運営事業【きむらとしろうじんじん「野点 in さかい利晶の杜」】
実施主体	指定管理者（SAKAI 縁プロジェクト）

事業概要	茶の湯に触れる機会の少ない人たちはもちろんのこと、普段茶の湯に親しんでいる人たちにも新たな切り口で茶の湯の世界に触れてもらうことで、施設への誘客および茶の湯人口の裾野を広げることを目的として実施する。
調査概要	日程：令和6年11月4日（月・祝） 内容：きむらとしろうじんじん「野点 in さかい利晶の杜」 場所：さかい利晶の杜
事業の重点的方向性への寄与	● 堺市が重点を置いている「茶の湯」文化を、専門的に関わっている人たちだけではなく、多くの人に魅力を伝えるという意味で、本事業の主旨や内容は「多くの人に魅力を伝える」に寄与している。他方、より間口を広げてこどもも含む多くの人に魅力を伝える事業にするためには、地域と連携し地域へより開かれた実践を取り入れていく必要があると思われる。 ● 「多くの人に魅力を伝える」ことが事業の重点的方向性であるが、素焼きの準備と当日の運営の面から、参加者数は35名に限定される。もちろん抹茶を立ててのお茶会の参加者数は35名に限定されないが、多くの人に魅力を伝えることを表面的に捉えるならば、その寄与も限定的であろう。また、費用対効果の面をどのように考えるのかも問われるかもしれない。ただし本事業は、さかい利晶の杜にとっては、いわばシンボリックな意味を持っており、その波及効果は35名に限定されるものではないだろう。きむらとしろうじんじん氏の野点を通じた真心の輪がじわじわと広がっていくことで、多くの人に魅力を伝えるという目的に、直接・間接に寄与していると考えたい。 ● 今まで全国各地でイベントを展開されてきたアーティストと「さかい利晶の杜」とのコラボ企画は、老若男女を自然と巻き込んで大変活気のある、堺の気風とも合致した進取果敢な催しであった。“茶会”と名が付くと堅苦しく敷居の高いイメージを持たれる方も多いが、この催しは参加者の皆さんが思い思いにリラックスして楽しむことに主軸が置かれており、茶の湯に親しんでいる方もまたそうでない方も共にきむらとしろうじんじん氏のパフォーマンスに見入って参加されているのが印象的であった。開放的でのびのびとした雰囲気の提供に、「さかい利晶の杜」という場所が非常に重要な要素となっていると感じた。 「多くの人に魅力を伝える」という重点的方向性の寄与においては、本イベントの内容と方向性および実施結果は大成功していると思う。 ● 重点的方向性3「多くの人に魅力を伝える」という観点では、本事業に関わる人々の関与の度合いが多元化・多重化しているゆえ、その意義がより深められていると感じた。主催者側はアーティストとの当初の調整を、準備の過程では公募によるサポートスタッフが広く、市民が楽しむ場づくりへの工夫を担い、参加者はお茶碗絵付けまでかお抹茶のみか、自らの手による「ありがとう茶会」にも興味を向けるか、そもそも見学だけ、それ以上に街路から覗くだけの方もいただろう。

おわりに

今年度視察した各事業はそれぞれの重点的方向性に寄与する内容となっていたが、次年度以降に改善すべき課題もいくつか見受けられた。各重点的方向性の評価指標に対する審議会の主な意見は以下のとおりである。

（１） 重点的方向性１：文化芸術とともに生きる

「トークイベント」は、「文化芸術活動の評価」という専門的な内容であったが、多くの関係者が参加し、それぞれの立場での評価について理解を深めることができた。参加者からの質問や意見も出て、文化芸術活動の現場で発生する問題を共有し、事例を踏まえながら、それぞれ異なる立場から議論され、評価について考えることで、今後に向けた活動の新たな可能性が示された。本事業では文化芸術活動の具体的な事例から本質的な問題まで広く扱っており、アーカイブでの公開を活用し参加者のみならず、文化芸術活動を行う者をはじめ、多くの関係者への更なる広がりを目指す。

「さかいとあーと井戸端かいぎ（交流会）」は堺アーツカウンシルの専門家たちや、地域で活動する参加者同士が自らの活動を踏まえた意見交換を行うことで、堺市の文化芸術活動の活性化につながる取組である。また、補助金事業の説明会直後に開催することで幅広い世代、異なるジャンルの参加者が集まり、活発な交流が生まれている。

堺アーツカウンシルを中心に文化芸術を通じた社会的課題の解決につながる取組が行われており、「文化芸術とともに生きる」という方向性に沿った施策と言える。堺アーツカウンシルの活動とその報告書の内容は、市民に寄り添うことで地域の文化芸術活動を活発にし、文化芸術のすそ野を広げていくものである。更なる認知度向上に向けて、堺市内はもちろんのこと広く全国に発信すべき取組である。

（２） 重点的方向性２：文化芸術で子どもたちを育てる

「ワークショップスキル夏季集中講座」は幅広い年齢層で様々な音楽ジャンルで活動するアーティストが集まり、子どもたちが文化芸術に触れる場や機会を創出していくことの出来るアーティスト育成等、そのコミュニティを形成する事業目的が明確である。ワークショップ実施後も実際に学んだことを披露する場や、アーティスト同士で交流できる場が設けられており、専門人材の育成と環境整備を長期的な視点で取り組んでいたのは評価に値する。ただし、このような事業を持続的に提供するためには公益財団法人堺市文化振興財団（以下、財団）の負担や労力も考慮して実施する必要がある。

「アートスタートプログラム（未就学児対象アウトリーチ）」は、子どもたちが文化芸術活動に触れる機会の提供だけでなく、子どもたちに向けたプログラムを実施するアーティストの育成にもつながっており、「文化芸術で子どもたちを育てる」という重点的方向性に寄与する取組が実施されている。財団には、プロフェッショナル集団として一層専門性を高めることが期待されるが、全ての応募校・園に対する派遣ができていない点については財団の人材を拡充することや、実施校・園のニーズを事前に想定してプログラムを一部パッケージ化するなど、引き続き堺市と協働の上、改善を求める。

（３） 重点的方向性３：多くの人に魅力を伝える

「文化芸術振興事業（フェニーチェ堺）【“子どものための”音楽のあるひととき】」は楽器作り、コンサートを通じて、こどものみならず、大人も楽しめる構成内容で、「夏の子どもワークショップ DAY」

と同時開催することでフェニーチェ堺全体が多くの来場者で賑わい、「多くの人に魅力を伝える」という重点的方向性に資する取組である。次に実施される場合には、コンサートの迫力やより多くの楽器の魅力を知ってもらうためにも予算を考慮し、楽器の種類や演奏者の増加等を検討されたい。

「さかい利晶の杜管理運営事業【きむらとしろうじんじん「野点 in さかい利晶の杜」】」は、茶の湯文化の拠点であるさかい利晶の杜で実施された、従来の茶の湯とは異なるユニークな野点スタイルであり、固定観念に捉われない革新的な事業である。茶の湯文化を通じた「多くの人に魅力を伝える」取組であり、運営面から参加者数が限定されているものの、「堺茶の湯まちづくり条例」がある堺ならではの独自性を出す等、更なる工夫を期待したい。

上述の通り、各委員による事業視察の結果を踏まえると、各重点的方向性に寄与する取組が行われており、重点的方向性の実現に向けた施策が実施されていると評価することができる。一方で、各視察事業においては、それぞれに課題も見られたことから、堺市、堺アーツカウンシル、公益財団法人堺市文化振興財団、市民、事業者等が相互に協力しつつ、次年度以降、より妥当性・有効性の高い事業実施に向けて改善を進めてもらいたい。また、第2期計画の目標達成に向けて、適切な事業目標、事業手法、事業のプログラム内容等を十分に検討の上、事業の見直しを進められたい。

